

エリクソン、次世代通信技術開発投資での欧州の劣勢を懸念

スウェーデンの通信機器大手エリクソンは、欧州におけるR&D投資のリターンに関する情報開示を拡大すると予告した。同社のエワードソンCTOは、R&D投資のリターンが低下していることを広く公開して、このままでは欧州が5Gモバイルサービスをはじめとする次世代通信技術の開発で他地域に遅れをとってしまうリスクが高いことに警鐘を鳴らしたいと説明した。CTOはまた、企業は3～4年後のことを考えて投資するが、欧州諸国政府も、より長期的なビジョンに基づいて通信ネットワークに投資する必要があると強調した。

エリクソンの場合、R&D投資総額37億ユーロのうち、22億ユーロを欧州に投入しているが、売上に占める欧州のシェアは5年前の28%から20%前後にまで低下しているという。

エリクソンは他の通信関連事業者と同じく、EUの競争政策にも批判的な見方を示している。EUの競争規制が各加盟国において多数の事業者を人為的に共存させ、大手通信グループの形成を妨害し、料金引き下げ競争を招いて投資リターンを押し下げているのと対照的に、例えば米国では競争と規制の度合いが相対的に低いおかげで、規模の大きい事業者によるネットワークへの投資が活発化し、エリクソンなど通信機器メーカーにも利益をもたらしている。エリクソンはユビキタスマバイルブロードバンドサービスをもたらす5G技術の規格開発に着手しているものの、この分野での欧州の出遅れを警戒している。

(Financial Times Online、2014年5月26日)

エリクソン、欧州における4G敷設の遅れを予想

スウェーデン通信機器エリクソンは6月4日、欧州が2019年時点でも4Gで米国に遅れを取ると予想した報告書を発表した。報告書は、欧州の2019年末時点における4Gカバー率を約80%と予想。一方、欧州での4G普及率は30%程度に留まり、米国の85%を大きく下回ると予測した。報告書は世界の4Gカバー率について、地域ごとに大きなばらつきが見られることになると予想、すべての地域で増加が見られるとしても、欧州内でも、西欧及び中欧、東欧の間で大きな格差が残ることになると予測している。エリクソンの予測では、東アジアでの4Gカバー率は、2019年に95%に達し、普及率も45%に達する。2019年には、中国の4G加入者数は7億人に達し、世界の25%を占めることになるという。他方、報告書では、SIMカード流通数の大幅増を見込んでおり、2015年には、流通数は世界人口を上回ると見ている。SIMカード流通数は、年7%の成長を続けており、2014年第1四半期だけで1億2000万枚増加した。モバイル・ブロードバンド加入契約数も増加を続け、2019年年末までには76億に達し、携帯加入契約総数の80%に達すると予測されている。

(AFP 2014年6月4日)